東京家政大学健康科学部看護学科　カリキュラムツリー

【育成する人材】
建学の精神「自主自律」としての職業的自律性を礎とし、生命の尊厳を守り、科学的根拠に裏づけされた知識・技術を用い、あらゆる年代における人々が「その人らしく生活する」を支援するために必要な能力を備えた看護専門職者

【育成する人材像】
看護師：人々の多種多様なニーズに対応できる看護の専門知識を有し質の高い支援ができる看護実践者。
保健師：地区活動、健康教育、保健指導等の看護活動を通して、地域社会で生活する人々の疾病予防、健康課題・問題を組織的に解決・支援できる公衆衛生看護の実践者。
助産師：妊娠・出産・産褥期にある女性と胎児・新生児が自然で安全に経過する助産ケアが提供できる看護実践者。また周産期医療システムにおける助産業務の遂行者。

アドミッションポリシー

知識・技能
1. 看護に必要なコミュニケーション能力（読む・書く・聴く・話す）の基盤としての「国語」・「英語」、また生命現象を理解する基礎としての「生物」・「化学」に興味関心がある。
2. 積極的に学修を行っていて、国語・数学・英語・理科（生物・化学）の基礎的な学力を有している。

思考力・判断力・表現力
3. 他者の話をしっかり聴き、理解し、判断できる。その上で自分の考えを表現することができる。

主体性・多様性・協働性
4. 看護に興味関心がある。
5. 問題意識を持ち、解決に向け主体的に取り組むことができる。
6. 多様な人とコミュニケーションをとり、協働することができる。
7. 健康的な生活習慣を心がけている。

カリキュラムポリシー

教育課程編成の全体方針
看護学科が掲げるディプロマポリシーの実現と看護師、保健師、助産師の国家試験受験資格を取得するための「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準じてカリキュラムを編成しています。
いのちの誕生から老いまで、あらゆる年代における人々が住み慣れた自宅や地域で「その人らしく生活する」を支えるために、病気をみる「医療」の視点と、生きていく営みである「生活」の両方の視点から、その人を支援することに価値を置き健康の保持増進と生活の質を維持する看護実践力を有する専門職者として、また保健医療福祉の発展と向上に貢献できるよう、各年次において段階を追った講義・演習・実習科目を配置します。

授業内容
1. 本学の建学の精神「自主自律」、生活信条「愛情・勤勉・聡明」を体現化するため、全学共通教育科目として＜ヒューマニティー＞＜ダイバーシティ＆インクルージョン＞＜サステナビリティ＞＜グローバル・コミュニケーション＞＜データサイエンス×デザイン＞＜ヘルス＆ウェルビーイング＞の区分に各科目を設定します。狭山キャンパス開講科目に加え、板橋キャンパス開講のメディア授業も受講できます。

2. 専門基礎分野は、＜心身の構造と機能・疾病からの回復＞＜社会の構造と機能＞の各区分に、臨床判断能力の基盤となる医学的知識、健康を維持・増進させるための保健医療福祉に関する知識を修得するための科目を配置します。

3. 専門分野は、誕生から老い（死）まで、あらゆる年代の人々が住み慣れた自宅や地域で「その人らしく生活し、その人らしく生を全うできる」を支えるために、個のケアから地域包括ケアに必要な知識・技術、高い倫理観（態度）を修得するための科目を系統的に配置します。看護の集大成として、“看護とは”を常に問い追求し続ける姿勢、将来、臨床現場や地域で求められるリーダーシップ、国際的な視野等を学ぶ科目を配置します。

4. 臨地実習は、医療から地域における生活の場への拡大に伴い、保健指導能力、臨床判断能力、多職種と協働する能力、地域・家族をみる能力を修得できる内容で構成します。
1年次早期、看護の学習基盤を形成するために、フィールド体験学習を実施します。4年次は、看護の専門性の深化と実践力の向上を目指して、3週間の統合実習を配置します。

1年次 看護職者としての意識を養う

区分	科目	前期	後期
全学共通教育科目	コア科目	スタートアップセミナー自主自律 基礎ゼミナール キャリアデザインⅠ	
	ヒューマニティ	生命倫理 心理学	日本語表現Ⅰ
	ダイバーシティ＆インクルージョン	家族社会学 人間関係論 コミュニケーション論	
	サステナビリティ	物理学概論 化学概論 生化学	
	グローバル・コミュニケーション	英語ⅠA	英語ⅠB 多文化理解Ⅰ
	データサイエンス×デザイン	データサイエンス基礎	
	ヘルス＆ウェルビーイング	発達心理学	生命科学 神経科学
専門基礎科目	身体の構造と機能 疾病からの回復	形態機能学 疾病治療論Ⅰ 疾病治療論Ⅱ	リハビリテーション概論 薬理学 疾病治療論Ⅲ 疾病治療論Ⅳ
	社会の構造と機能	公衆衛生学	
専門教育科目 専門科目	基礎看護学	看護学概論 救急看護法 看護の基本技術Ⅰ	看護理論 看護の基本技術Ⅱ ヘルスアセスメント 基礎看護の実践Ⅰ
	地域・在宅看護論	健康・生活・地域実習	地域・在宅看護学概論Ⅰ
	母性看護学		
	小児看護学		
	成人看護学		成人看護学概論
	老年看護学		
	精神看護学		
	看護の統合と実践		災害看護Ⅰ
保健師課程	公衆衛生看護学		
助産師課程	助産学		

2年次 疾病と看護方法の基礎知識を学修する

区分	科目	前期	後期
全学共通教育科目	ヒューマニティ		
	ダイバーシティ＆インクルージョン		
	サステナビリティ		
	グローバル・コミュニケーション	医療英会話	看護・医学英語
	データサイエンス×デザイン		医療情報システム論
	ヘルス＆ウェルビーイング	遺伝学	体育（講義） 体育（実技） 栄養学
専門基礎科目	身体の構造と機能 疾病からの回復	疾病治療論Ⅴ 疾病治療論Ⅵ	感染免疫学 精神発達論 臨床心理学 カウンセリング論
	社会の構造と機能	健康教育	関係法規 社会保障概論 保健医療福祉行政論Ⅰ ボランティア活動論
専門教育科目 専門科目	基礎看護学	看護の基本技術Ⅲ 看護過程	基礎看護の実践Ⅱ
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護学概論Ⅱ	地域・在宅看護方法論
	母性看護学	母性看護学概論	母性看護方法論
	小児看護学	小児看護学概論	小児看護方法論
	成人看護学	成人看護方法論Ⅰ	成人看護方法論Ⅱ
	老年看護学	老年看護学概論	老年看護方法論
	精神看護学	ノーマライゼーション 精神看護学概論	精神看護方法論
	看護の統合と実践		
保健師課程	公衆衛生看護学		
助産師課程	助産学		

3年次 看護実践を学修する

区分	科目	前期	後期
全学共通教育科目	ヒューマニティ		
	ダイバーシティ＆インクルージョン		
	サステナビリティ		
	グローバル・コミュニケーション		
	データサイエンス×デザイン		
	ヘルス＆ウェルビーイング		
専門基礎科目	身体の構造と機能 疾病からの回復		
	社会の構造と機能	保健統計	疫学 地域保健 保健医療福祉行政論Ⅱ
専門教育科目 専門科目	基礎看護学	看護倫理	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護の実践	
	母性看護学	母性看護の実践	
	小児看護学	小児看護の実践	
	成人看護学	成人看護の実践	
	老年看護学	老年看護の実践	
	精神看護学	精神看護の実践	
	看護の統合と実践	看護研究Ⅰ	
保健師課程	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	
助産師課程	助産学		助産学概論

4年次 看護の統合と看護実践力の向上を図る

区分	科目	前期	後期
全学共通教育科目	ヒューマニティ	家政学原論 人間と学びA（心と行動の科学）	
	ダイバーシティ＆インクルージョン	日本国憲法 多様な社会を生きる 日本の歴史 社会学 経済学 社会と多様性E（人類の多様な文化） 社会と多様性F（サブカルチャから見る日本）	
	サステナビリティ	自然と暮らしA（社会とエネルギー） 自然と暮らしE（生態系と生物多様性）	
	グローバル・コミュニケーション	中国語 グローバルな社会と文化D（世界の宗教と社会を知る） グローバルな社会と文化F（世界の動きと私たちの暮らし）	国際関係論Ⅰ
	データサイエンス×デザイン	統計学入門 データサイエンスと社会C（ロボットと人工知能） データサイエンスと社会D（ヘルスデータサイエンス入門）	看護情報学 ヒューマンロボティクス
	ヘルス＆ウェルビーイング	ウェルネスC（心のレジリエンス） ウェルネスD（脳科学に学ぶ）	医療経済学
専門基礎科目	身体の構造と機能 疾病からの回復	カウンセリング論	
	社会の構造と機能	保健医療福祉行政論Ⅲ	産業保健 学校保健
専門教育科目 専門科目	基礎看護学		
	地域・在宅看護論		
	母性看護学		
	小児看護学		
	成人看護学		
	老年看護学		
	精神看護学		
	看護の統合と実践	看護管理 看護教育 災害看護Ⅱ 統合実習 看護研究Ⅱ	国際看護
保健師課程	公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ	公衆衛生看護管理論
助産師課程	助産学	周産期医学 助産診断・技術学の基礎 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学Ⅳ 地域母子保健 助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ	助産管理

ディプロマポリシー

【5つの能力】
①生命の尊厳と人格を尊重した看護の実践力
②健康の保持増進と生活の質を維持する看護の実践力
③保健医療福祉において多職種間および地域と協働・連携できる能力
④看護の探究心と研究的姿勢
⑤国際的視野から行動する力
を4年間で修得します。

近代看護の祖ナイチンゲールの示唆「看護は人をみる。人を看護する。人をみるとは、その人の思いを感じること」を基盤として、患者とその家族が「その人らしく生活する」を支える看護が実践できる学生に対して学位（看護学）を授与するものとします。

知識・技能
1. 人間理解を基盤として、健康に関与する看護の基本が身についている。

2. 援助的人間関係を基盤に人の誕生から老い（死）までの過程における健康課題に対して取組むことができる。

3. 健康の保持増進、疾病予防、健康障害からの回復に向けた看護が、専門的知識・技術を用いて、科学的根拠に基づき実施できる。

思考力・判断力・表現力
4. 看護の対象である人を身体的・精神的・社会的な側面を統合して理解する基礎力が身についている。

5. 人の自由と権利を尊重し、いかなる場合でも看護職者としての役割を倫理的に判断し、行動できる。

6. “看護”を意識的に問い続け、自ら発見した看護に関する課題に対して研究的に取り組み、看護の現象を科学的に追求する姿勢を継続できる。

主体性・多様性・協同性
7. 看護の対象である人を思いやる人間性をもち、社会と積極的に関わっていく高いコミュニケーション能力を身につけている。

8. 質の高い医療の提供に向って地域等の様々な資源を活用するとともに、患者・家族を取り巻く多職種間を調整する役割を果たすことができる基礎力をもっている。

9. 諸外国の医療・看護の課題、看護事情に関心をもち、専門職者として国内外で活躍するための基礎力をもっている。

就職先

国公立病院
大学附属病院
赤十字病院
民間病院
医療センター
周産期母子センター
訪問看護ステーション
地域包括支援センター
市町村
都道府県
学校
企業の健康管理部門
健康保険組合
など